

『くもの糸』を読んで

弘前市立福村小学校

千葉晴登

「みんなかわいそうだな。」

ぼくは『くもの糸』を読み終えて、そう思いました。なぜなら、おしゃか様は、かんだたを信じていたのにうら切られてしまい、かんだたも、天国へ行くチャンスを与えられたのに糸を切られ、地ごくへもどつてしまつたからです。とても残念な結末だと思います。

作者はなぜバッドエンドで終わらせたのでしょうか。ぼくが作者だったら、かんだたをごく楽にのぼらせてハッピーエンドにしたいです。その方がかんだたのくもに対する思いやりの心がむくわれてスッキリ終わって気持ちがいいです。

くもの糸が切れた原いんは、かんだたが後からのぼつくる人たちに、「おれの糸だぞ」と言つて追いかはつたことです。ひどいことをするな、と思ったけれど、自分がかんだたの立場だつたら、同じように天国へ行くチャンスを一人じめしたいと思うはずです。かんだたのように口で言うことはしないけれど、心では同じことを思つてしまします。でもきつ

と、口に出さなくともそう思つただけで、おしゃか様は糸を切つてしまうのではないでしようか。

人にはだれでも、よい心と悪い心があると思います。ごく悪人のかんだただつて、くもの命を救う心がありました。でも、本当のピンチになった時でも人を思いやつて行動することはとてもむずかしいと思います。心では何が正しくて、何が悪いことなのか知つているけれど、それを行動にうつすことはなかなかできません。ぼくもそれで失敗するすることがよくあるのでかんだたの行動は理かいできます。

また、おしゃか様はかんだたを信じたのに、かんだたの自分勝手な行動を見て、残念な気持ちになつたと思います。もしかしたら、地ごくなんか見なければよかつた、と後かいしめたかもしれません。地ごくにおちた罪人なんだからぼうつておけばよかつたのに、と思います。だけど、かんだたの心におくにあるよい心にひきつけられてしまつたのでしょうか。結きよく、かんだたはよい心を持ち続けることはできなかつ

たけれど、かんだたを信じたかつたおしゃか様の気持ちはなんだかわかる気がします。

こうやって、かんだたとおしゃか様の立場に立つて考えてみると、一人の行動になつとくできました。きっと作者は人

の心をよくわかつているからわざと悲しい結末にしたのだなと思います。ハッピーエンドのお話ではなかつたけれど、人の心について考えさせられるとてもインパクトのあるお話をした。